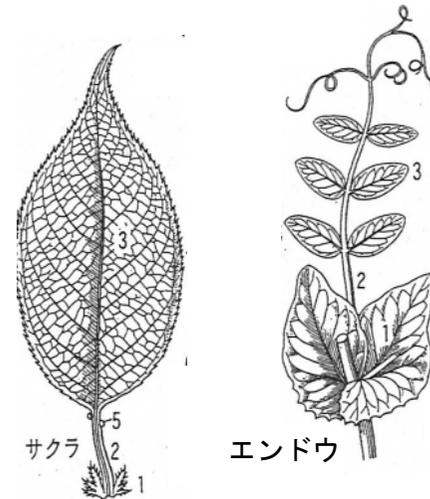


これも葉？

___月___日 なまえ_____

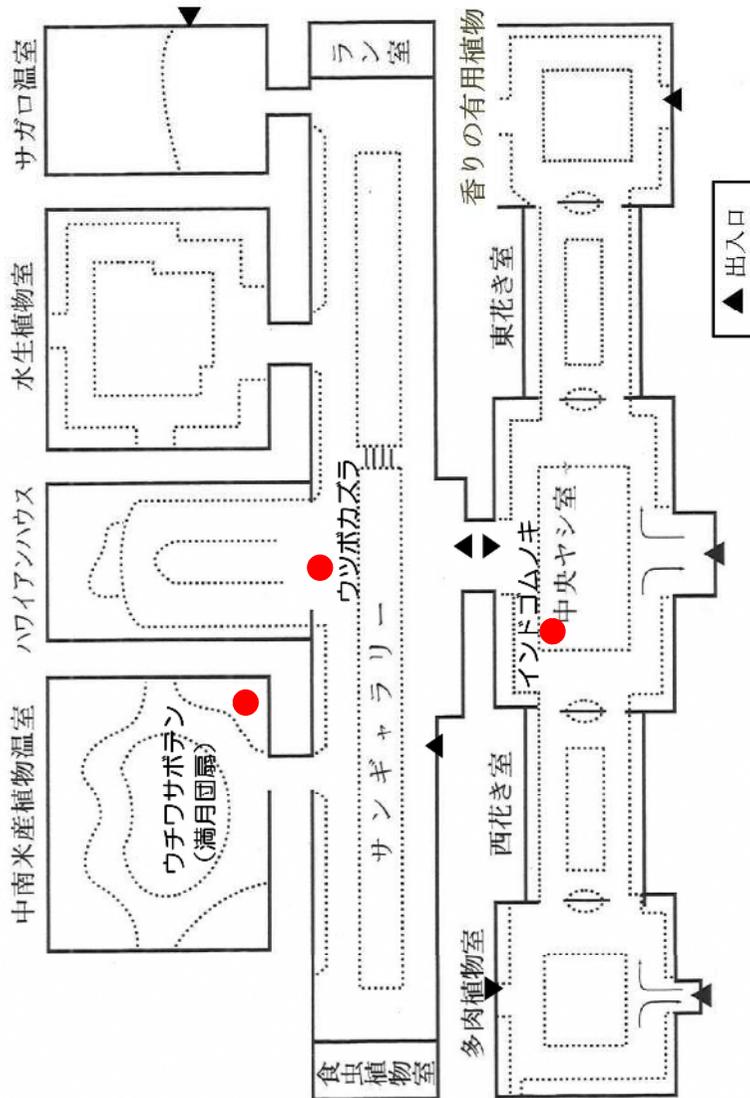
植物は基本的に茎と葉と根からできています。そして葉の多くは、3つの部分からなっています。平たく広がっている葉身（ようしん）と、枝や茎と葉身をつなぐ葉柄（ようへい）と、葉柄が茎についている所にある托葉（たくよう）という小さな葉です。葉の大きな役割は、光合成をして植物に必要な養分を作ることです。



葉の各部 1托葉, 2葉柄, 3葉身, 4葉の変化
したつる, 5蜜腺(みつせん) 岩波書店「科学の辞典」より

しかし、葉は、時に色々な形に変わって、違う働きをすることがあります。葉が針のようになっているもの（サボテン）や葉の先が巻きひげとなっているもの（マメ科のエンドウやスイートピー）があります。

また、虫を食べる植物（食虫植物）では、葉が変形してトラップ（わな）になっているものもあります。托葉が、つるになっていたり（サルトリイバラ）、とげとなっているもの（ハリエンジュ、ハナキリン）もあります。ゴムノキでは、枝先に大きな托葉が伸びて、次の新しい葉を守っています。



答え

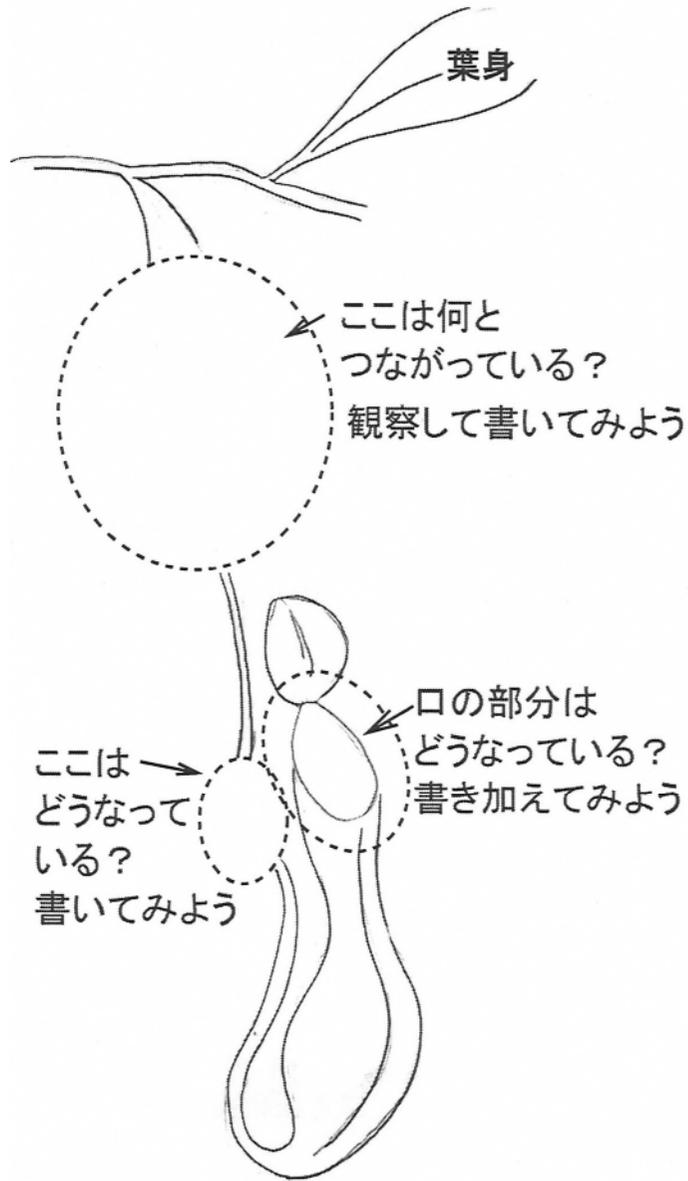
A1：食べられる。自生地のメキシコの市場では、ウチワサボテンの仲間が野菜として売られている。

A2：葉。若い茎には小さな鱗片状の葉がついているが、すぐに脱落する。

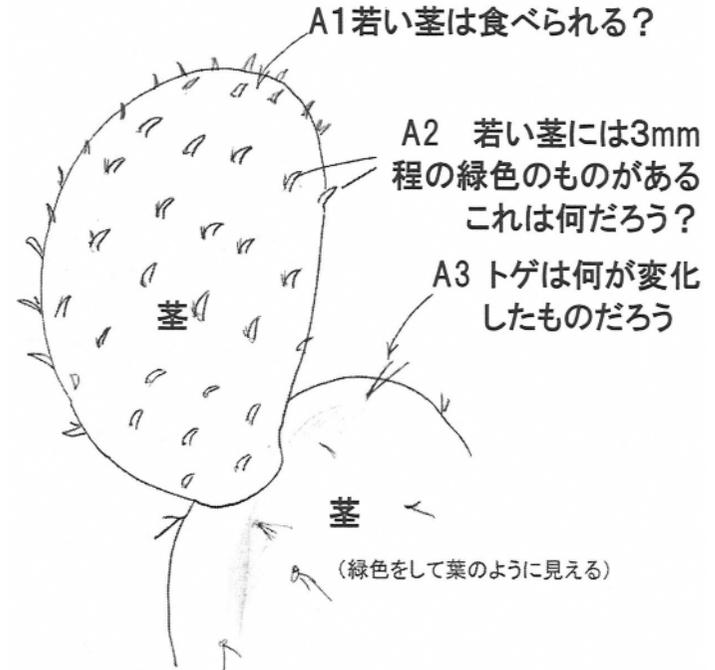
A3：葉。緑色の丸い茎が光合成をして、葉の役割を果たしている。

A4：だんだんしおれて、最後にはとれてしまう。

①ウツボカズラ



②ウチワサボテン



③インドゴムノキ

A4 新しい葉が開いた
あと、托葉はどうなる
だろう？

